

狛江市長

松 原 俊 雄 様

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会答申
(市民協働事業提案制度【市民提案型】・令和5年度提案事業)

令和5年5月18日付け狛企政発第000098号にて狛江市長より諮問のあった「市民協働事業の提案に関する事項」について、当審議会において検討を重ねた結果、別紙のとおり答申としてまとめましたので、報告いたします。

令和5年8月30日

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員

会 長	奥 村 隆 一
副会長	関 谷 昇
委 員	西 智 子
委 員	深 谷 慎 子
委 員	岡 本 千栄子
委 員	麻 宮 百
委 員	石 田 琢 智
委 員	伊 東 達 夫
委 員	伊 藤 秀 親
委 員	小 林 未結希
委 員	大 門 孝 行
委 員	馬 場 正 彦
委 員	箕 輪 明 久
委 員	若 山 拓 也
委 員	遠 藤 貴 美 子

令和5年度市民協働事業提案制度【市民提案型】について

1. 令和5年度提案事業

■市民提案型市民協働事業・・・1件

事業名	応募団体名	担当部署名
外国人を支えるやさしいまち	にほんごしえん	政策室

2. プレゼンテーション及び審査会

■実施状況

日時：令和5年7月22日（土） 10時～

会場：防災センター4階会議室

担当：狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員（4名）

3. 審査方法・結果

■別紙審査表のとおり

審査に当たっては、下記のとおり設定する審査点（別紙審査表参照）による基準を基に、審議会において総合的に判断した。①・②とも基準を満たしていることから採択が望ましいと考える。

【審査点による基準：①・②両方を満たすこと】

①評価点合計30点の1/2となる15点×審査員数以上

②重点ポイントについては、「寄与する」等4点の部分の部分を基準とし、12点（4点×3審査項目）×審査員数以上

【結果】

①評価点：92点/120点（基準点・60点）

②重点ポイント：62点/72点（基準点・48点）

4. 総括

本事業は、日本語の支援を必要としている児童・生徒・保護者等を対象に生活言語習得の支援を実施するという地域課題の解決に寄与する事業であり、公益性が高く、市との協働により事業効果がさらに上がると考えられる。

一方で、運営面での実施能力においてやや不十分な部分もあり、現状では未だ独立した団体とは言い難い状況である。活動会場について、いつも同じ場所にこだわらず、市の様々な公共施設を活動内容に合わせてうまく利用するよう、見直していただきたい。

行政課題に対して多くの市民が関心を持ち、市民が市民を支える仕組みへと発展していくことは、まちづくりとしても理想的であり、課題解決に向けて行政等と連携することで事業が継続されていくことを期待する。

市民協働提案事業 審査表

提案団体名	にほんごしえん
提案事業名	外国人を支えるやさしいまち

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1. 大変寄与する（6点） 2. 寄与する（4点） 3. あまり寄与しない（2点） 4. 全く寄与しない（0点）	A	B	C	D
《点数》				
<特記事項> ■この提案事業自体は、現代の課題解決の一つとして重要度が高く評価できる。 ■狛江市に住む人たちが皆、コミュニケーションで助け合いながら安心して生活できるという基盤になると実感した。 ■日本語コミュニケーションに困っている市民に対して、生活をサポートする事業は、公益性が高い事業であると考えられる。一方、参加者と支援者の数を見ると、1；2程度の割合となり、多数市民の利益増進に寄与しているとは考えにくく、今後の運営と活躍に期待する。 ■日本人と外国人居住者の共生が進む中で、相互のコミュニケーション、理解が必要となってくる。現行の行政制度の枠組みではカバーしきれない分野に貢献することが期待される。	6	6	6	4

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1. 大変適正である（3点） 2. 適正である（2点） 3. あまり適正でない（1点） 4. 全く適正でない（0点）	A	B	C	D
《点数》				
<特記事項> ■実際に一年間の中で様々な活動を積み重ねており、具体性がある。市との役割分担では、活動費用を全て市にゆだねている。会場確保に関しては、市の施設の利用についてより柔軟に考え、会場利用の方法や参加者の利便性に対する考え方なども工夫を重ね、双方の連携を密にして、よりの活動しやすい状況を生み出していく必要がある。 ■市と団体で協力する価値のある事業だと強く思った ■「にほんごサロン」・「放課後支援」・「地域イベントへの参加」・「公開講座」などの活動実績もあり、実施方法についても現実的な内容であると考えられる。一方、「ちょこっと通訳」は、市、学校、他団体との連携を行なって、活動を促進させてほしいと期待する。 また、代表・副代表・経理担当と事業運営に必要な担当が設置されており、団体が自立した活動を推進していると伺えた。 ■日本人と外国人居住者の共生が進む中で、相互のコミュニケーション、理解が必要となってくる。現行の行政制度の枠組みではカバーしきれない分野に貢献することが期待される。 ■にほんごサロンを定期的で開催して外国籍の親子たち、地域団体との信頼関係が出来ていると感じた。団体に対して、市（行政）は会場確保についてアドバイスをしてほしい。	2	2	3	1

③**実現性**：事業計画は妥当であり、ウィズコロナ、アフターコロナに対応するなど事業に実現性があるか。

1. 大変実現性がある（3点） 2. 実現性がある（2点） 3. あまり実現性がない（1点） 4. 全く実現性がない（0点）	A	B	C	D
《点数》				
<特記事項> ■事業計画は多岐に渡り、市内の様々な団体とも連携したイベントもあり、評価できる。今後、日々の生活言語の日本語習得支援の本来目的が果たせるよう、イベント以外の日常における外国人を支える役割（定例の日本語サロン等）を強化していくことが必要なのではないかと思われる。 ■実際、市のボランティア団体との連携もできているので、実現性がある。 ■活動計画は、すでに1年間以上の活動実績があり、妥当であると考えられる。また、Webページ、Facebook、LINEによる発信にも取り組んでおり、ウィズコロナ、アフターコロナに対応した事業の実現性があると考えられる。しかし、令和8年度を目途に、法人化を検討している点については、実現性のハードルが少し高いように感じた。法人化に向けて、事業計画を適宜見直ししながら推進してほしいと考える。 ■会場の確保が喫緊の課題となっている現状が明らかになったので、そこに一抹の不安を感じる。民間施設を借り続けた場合の費用を今後、確保できるのかどうか。②にも書いたが、行政サイドからのアドバイス、助力をお願いしたい。	2	2	2	2

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1. 大変効率性がある（3点） 2. 効率性がある（2点） 3. あまり効率性がない（1点） 4. 全く効率性がない（0点）	A	B	C	D
《点数》				
<特記事項> ■イベント等の講師料等を中心に全額市負担としている。今後様々な資金調達が計画されているものの未だ実行段階ではない。実施方法のところでも触れたが、会場に関しては公共の施設を目的に合わせて選択する等柔軟に考え経費節減する等、工夫することが必要である。 安定的な資金計画が今後は必要である。その上で初めて有償ボランティアの部分を考える等発展性を持たせることができると思われる。 ■場所について、市と一緒にもう一度考えてみるとよいと思った ■予算計画に記載の数値は、詳細について検討されており、実現性のある予算であると判断する。しかしながら、会議費・会場費に計上されている予算が、合計の63%に設定されているため、公的施設の利用も含めて、実施するのが望ましいと考える。利便性・安全性・固定した場所を強調していたが、その点も含めて「にほんごしえん」の活動の一部と考える。 ■会場費負担の金額が突出しているため、市（行政）が難色を示しかねないが、安定的に中央公民館を借りられないという事情は団体に責めを負えないと思う。	2	2	2	1

◆団体について

①★協働性：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■事業のテーマそのものは市の課題でもあり、協働は欠かせない。市と団体、こまえくぼの支援体制（現在事務局をこまえくぼ内置いている）を整理し、より活動に独自性が出てくると良いと思われる。 ■狛江市の「誇り」になる団体だと思う。 ■「にほんごしえん」＝「生活言語」習得への支援と定義したことで、市との協働によるさらなる効果が見えやすくなったと感じました。市と情報交換を定期的に行えば、日本語に困ることが想定されるシチュエーションが複数明確になり、支援の幅が広がると感じた。また、学校や病院、公共施設など普段利用する場所との連携にも繋がるのではないかと考える。 ■①に記したように、事業内容の実現は市だけでは行えないと思うので、今後に期待したい。また行政のさらなるフォローを求めたい。	《点数》			
	4	6	6	6

②実施能力：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1. 大いに持つ（3点） 2. 持つ（2点） 3. あまり持たない（1点） 4. 全く持たない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■提案団体そのものはこの4月から「こまえくぼ」が中心になって運営している状況から任意団体として自立しつつある。力を付けて来ていることは確かで評価できる。だが、まだ様々な運営面でこまえくぼのサポートは必要であると思われる。 ■実際の活動報告を見て、とてもいいと思った。 ■参加者の出身国が、中国（11名）、ネパール（5人）、フィリピン（4人）ということ審査会の中で伺った。出身国の母国語に精通した支援者が十分ではないとの回答があり、スマホなどで翻訳しながら対応している点を考えると、実施能力を持つとは言い切れなと感じた。団体の能力向上を推進していただきたい。 ■外国語に堪能なスタッフが増えることを期待したい。	《点数》			
	2	2	2	1

③★発展性：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■発足から1年で多くの活動に取り組むことができている。今求められている市民活動でもある。団体として法人化を急ぐのではなく、現在の活動をより充実していくことを期待する。と同時に、市の担当部署の役割と「こまえくぼ」の支援機能の方向性も明確にすることも必要である。 ■皆さんの思いをととても強く感じたので期待できる。 ■事業内容の発展性は大いにありとされる。実施計画の資料にも記載があったが、テーマ「多文化共生とは何か？」の小学校での出前授業により、にほんごサロンに通っている生徒の立場と同じ環境に置かれたらどう思うかといった、他者理解を促す発展的な活動が期待できると感じた。また、他の日本語支援団体との棲み分けを理解しており、「にほんごしえん」卒業後の対応にも目線が向いていると感じました。年数が経過することで、日本語支援団体との定期的な交流があると、より良い活動になると思う。 ■将来的には法人化も検討しているようなので期待したい。「放課後支援」の具体的な内容を聞き損ねたが、学校内での活動であれば、子どもたちが会場に向かう必要もなく、会場費もかからないだろうから、こちらに力を入れることも検討して良いのではないかと。	《点数》			
	4	4	4	6

評価点計（30点満点/個人） 22点 24点 25点 21点

うち重点ポイント合計（18点満点/個人） 14点 16点 16点 16点

【審査結果】 事業内容の一部見直しを条件に採択することが望ましい

本事業は、日本語の支援を必要としている児童・生徒・保護者等を対象に生活言語習得の支援を実施するという地域課題の解決に寄与する事業であり、公益性が高く、市との協働により事業効果がさらに上がると考えられる。また、潜在的に市民活動に関心のある方が市民活動に参加できる機会が増えることにも繋がっており、様々な発展性が期待できる。

ただ、現状では、未だ独立した団体とは言い難い状況である。団体としての基盤作りをしておく必要がある。また、活動会場について、いつも同じ場所にこだわらず、市の様々な公共施設を活動内容に合わせてうまく利用するよう、見直ししていただきたい。

行政課題に対して多くの市民が関心を持ち、市民が市民を支える仕組みへと発展していくことは、まちづくりとしても理想的だと感じる。引き続き課題解決に向けて行政やこまえくぼと連携することで事業が継続されていくことを期待したい。

評価点 92点 / 120点
※基準点 60点

うち重点ポイント 62点 / 72点
※基準点：48点

【審査点による基準：①・②両方を満たすこと】

①評価点合計30点の1/2となる15点×審査員数以上

②重点ポイントについては、「寄与する」等4点の部分の基準とし、12点（4点×3審査項目）×審査員数以上 R4の基準点=108点